

## 「住吉の語り部となりたい」 シリーズ第 39 回

料亭つたも主人・深田正雄

2014 年 6 月 26 日

### 末広町の旦那衆(1-2 丁目西)

昭和 35 年頃、旦那衆の末広町は袋物雑貨・靴問屋、羅紗（服地）店が多く、老舗は現在も業態を変えて存続発展されています。一丁目西側の北からユニークな人々をご紹介します、まいりましょう。

KK 岩田産業さんは明治 6 年創業の岩田工機(株)が発祥で機械の製造販売からスタート、大正 10 年にはマドラス(株)として西洋靴の製造販売、南大津通りの靴専門店「アジアの靴」は最近まで営業されとてもお洒落な専門店でした。(写真 1)

そして、今年全通 80 周年を迎える旧国鉄高山本線開通の 3 年前・昭和 6 年、先々代岩田武七翁が、飛騨下呂の霊泉に、日本に誇れる温泉施設・湯之島館を創業。「自然の霊泉に恵まれない、中京人士の唯一の慰安場たらしむと同時に山國飛騨の神秘を拓いて文化のパイオニアとして地方疲弊の窮状を救はん」と岩田翁の言葉にあります。

昭和 6 年には都市ガスの販売及び供給する犬山瓦斯(株)を創業するなど、現在は社員数 600 名以上、売上も 178 億という地域への貢献企業です。(各社の HP より)そして、今の代表の岩田達七、栄七ご兄弟は栄地区の街づくりへも幅広くご尽力いただいております。若宮八幡社の門前町として発展した末広町は「山車からくり」につながる人形店もあり、南隣の西脇人形店も老舗でしたが、いつしかコインパーキングになっています。御曹司の西脇仁司君は白川幼稚園、栄小学校と同期生で、とてもヤンチャでイタズラっ子でした。正雄君はいつも仁司君にいじめられてばかりでしたが、彼は名古屋商工会議所国際部長から名古屋国際ビジネス・アクセス・センターの代表として愛知県へ進出を希望する外国企業をサポートに尽力されているようです。

靴店・松本商店は創業者松本満氏が、靴・袋物・靴卸商として昭和 23 年スタート、百貨店やスーパーへのランドセルの大手として発展、ヨーロッパへ進出ほか、販路を全国に拡大されています。最近まで、満夫人のおばあちゃんがお元気で活躍されていました。平成 18 年にお孫さん勝さんが社長就任され新しいブランド展開を企てていらっしゃいます。会長松本孝二氏は同 20 年に旭日双光章受章され、名古屋中ロータリークラブ会長を歴任され、欧州通の大的ワイン好きで貴重なボトルを私も近所のよしみでご馳走になりました。

袋物卸・モリシマ本店は喫煙具販売を中心に営業されていましたが、貸オフィスビルとなっているようです。南隣は大型マンションに、松村葉粧さんは賃貸ビルと変わりました。

(株)大橋大吉商店は大正5年(1916年)矢場町にて、べっ甲髪飾り専門卸として大吉氏が創業され、同12年から現在地に移転松坂屋名古屋店他、各地へ事業展開、平成8年大橋栄治社長就任後は宝石や毛皮イベントや海外ツアー開催で話題の企業です。KK山口商店は昭和27年に現在地に移転、昭和38年エリット株式会社に社名変更し、現山口勝弘社長はブランドと社名を統一し販路を全国に展開され鞆卸の大手として活躍、末広町町内会長として街の伝統と文化を承継しつつ地域の発展に寄与されております。(写真2)

その南、酒屋「かぎや本店」はお祖父ちゃんが他界したのを機に2-3年前閉店し、コインパーキングとなっています。化粧品「村瀬吉三郎商店」は明治時代からの老舗でしたが、土地を売却された後も故村瀬達夫さんは前町内会会長として尽力されておりました。

大旦那といえば服地KK西脇商店。初代西脇由兵衛が研屋町に明治10年西洋羅紗の切売り商として開業、明治38年に末広町現在地に移転、末広町の大旦那として貢献、大正11年には若宮八幡社の境内に神御衣(みころも)社を建立されました。針塚とともに針供養祭りが毎年2月8日に行われます。特製の豆腐やこんにやくに使った針をさして供養するとともに、裁縫の上達を願う女性達の古くからの年中行事の一つで、今では神御衣社でのこのお祭りは、女性達の幸せを願うお祭りとして知らされるようになりました。

私の経営していた森島羅紗店は昭和12年西脇の番頭・森島慶一が暖簾分け頂き創業しております。そして、二代目由兵衛氏の大番頭・実弟の嫁が父・深田正矩の従姉でもありご縁が繋がります。今でも毎年11月12日「洋服の日」には供養祭を森島スタッフと有志で執り行っております。

三代目由兵衛さんは大戦の傷痍軍人ですが、右腕を失っても各方面で活躍、全国服地卸商協同組合の重鎮としてだけでなく、左腕打ちゴルフを練習され和合コースでプレー、日本画も達者で嶋谷自然画伯の弟子としても話題の人です。また、戦後、白川町のほとんどの地域が寺町でアメリカ村に接収されましたが、数軒のみ白川町3・4丁目として残っていました。白川3丁目の南角は西脇家ご本宅に数年前まで由兵衛夫人が数寄屋造りの本格家屋にお元気でお住まいでした。昭和15年生まれの光彦さん(四代目由兵衛?)は私の繊維業界での後見人でもあり、兄貴分として公私にわたりお世話になっています。(写真4)

このように末広町西通り(現地名:栄2-15)は50年前からも地権者が変わらないことも多く旦那衆の町と言えますが、往時の賑わいがなくなったことが寂しく思います。(写真3)名古屋旦那衆文化発祥の地、エピソードの多い末広町物語、次回もお楽しみに!

写真1：岩田ビル看板

写真2：現在の末広町ビル群：左よりエリット、大橋大吉、モリシマ、マツモト

写真3：昭和35年当時の賑やかな末広町（写真2とほぼ同一地）

写真4：西脇由兵衛さまご本宅：白川町3丁目

写真5：末広町地図（昭和35年頃の住宅図）現在の栄2-15ブロック

写真1



写真2



